

1. 教育目標

豊かな感動体験を通して友だち同士育ち合い生きる力を育む

2. 本年度の領域別重点目標と園評価の記録

【領域別重点目標】

①保育・教育活動の充実

- ・(幼)子どもたちが、主体性を発揮しながら没頭して遊べる環境づくり
- ・(乳)乳幼児期の発達にふさわしい環境づくり

②職員の育成と資質向上や運営

- ・職員一人一人が研修を通じて意欲的に保育に取り組み、チーム力の向上につなげる。

③架け橋プログラム

- ・架け橋期についての理解と推進

④地域に開かれた園づくり

- ・保護者への丁寧な対応や、地域・各関係機関との連携強化

【園評価の記録】

- ・職員の自己評価(12月) ※「高知県教育・保育の質向上ガイドライン(改訂版)」の活用
- ・保護者アンケート(2月)
- ・園評価(3月)

3. 評価項目の達成状況

4段階評価 【4】十分達成した 【3】概ね達成した 【2】半分以上達成 【1】不十分

	評価項目	結果	考 察
①	子どもたちの主体的・対話的な学びを実現するための保育の展開	2.4	取組指標は2.3、成果指標は2.6で総合評価は2.4であった。乳児部と幼児部で取組指標と成果指標を各々で設定したが、幼児部の成果指標が2.8で、他は共に2.3であった。子どもの姿と遊びの環境づくりの面で、それぞれの指標によるレベル化が図られイメージしやすくなり、日々意識化されていた面がうかがえる。
②	記録の工夫を行うと共に、幼児理解に基づいた評価を図る	2.2	取組指標、成果指標は共に2.2で、総合評価も2.2であった。記録をとり活用することの意義は理解が図られてきているが、幼児理解という視点からは課題が残る結果となった。
	同僚性を活かした学び合いの場になる園内研修の実施	2.9	取組指標は、3.1、成果指標は2.7で総合評価は2.9であった。各種の園内研修の形態を取り入れることで、回数はもちろんのこと、取り組みの中で同僚性が培われてきたといえる。
③	地域の小学校と「架け橋プログラム」への共通理解	3.1	取り組み指標は3.1、成果指標は3.0で総合評価は3.1であった。これまでの取り組みの経過が反映された結果であると思われる。ただ、担任の評価が高いのに対し、幼児部の副担任の評価が低かったことは今後の改善点ともいえる。
④	保育の意図や幼児一人一人の育ちについて保護者と共通理解を図っていく	2.2	「保護者への対応」は2.4、「育ちの発信」「懇談の機会等の工夫」はともに2.2で、「クラス便りの工夫」は2.1であった。全般的に乳児部、幼児部ともに担任外の数値が低く、チームとしての取り組みのあり方を見直し検討する余地がある。
	地域に発信する子育て支援の充実(未就園児対象)	2.4	子育て支援の充実についての取り組みが、担当者レベルにとどまっているように感じられ内容発信と理解にも努めていきたい。

4 よりよい幼児期の教育を行っていくための改善策

子どもの主体的・対話的な学びを実現するための保育手法やその意義を見出せる一年となった。ウェブマップの活用の仕方を取り入れる等、子どもを捉える視点の広がりとともに保育者の発言も徐々に活発化しており、今後も継続していきたい。

日々の子どもたちの育ちゆく姿が、保護者に分かるような発信の工夫に努めながら、保護者とのコミュニケーションが一層図れるようにしていきたい。

全体的に、担任とそれ以外の各クラスに関わる職員との間で、評価結果が分かる結果となっており、0~5歳児の全ての子どもたちの育ちを全職員で見つめ共有し、保育者の力量を高めていくことに引き続き力を注いでいかなければならないと感じている。

令和5年度 本園の重点目標と評価項目・評価指標 (評価結果)

学校法人沢田学園 みさと幼稚園

領域	今年度の重点目標	評価項目(具体的方策)	評価指標				分析・考察	
			取組指標	結果	成果指標	結果		
① 保育・教育活動の充実	(幼) 子どもたちが主体性を発揮しながら没頭して遊べる環境づくり	子どもの主体的・対話的な学びを実現するための保育の展開	幼児	4 幼児の自由な発想を生かしながら、探究心を持って遊べる環境づくりを子どもと共につくっている	2.3	4 まわりからの刺激を受けて夢中になって遊び、自分の世界を広げながら友達と共に目的に向かって探究し、遊びの続きを楽しみにしている	2.8	乳児期の育ちと幼児期の育ちを繋げていくことや発達に合った環境づくりをより意識していくことを意図して重点目標を乳・幼児に分けて設定した。 このことで取組と成果を発達に合わせて連動させることができ、めざすものがより明確化されたといえる。 取組、成果の結果はともに予期したものとなり、今後は乳幼児それぞれにおいて「レベル3」をめざしていきたい。そのためには、日々の実践において計画的で、子どもに余裕ある保育展開をしていくことが求められる。
	(乳) 乳児期の発達にふさわしい環境づくり			2 各年齢の発達や個人差を踏まえ、個と集団がそれぞれの育ちに必要な体験ができる環境づくりができている(見守り、励ます、手伝うなどベストな支え方を考える)		2 発達過程に必要なトラブルや葛藤体験、自己調整などの体験をしながら、友達との関係が深まり、友達と遊ぶことの楽しさを味わっている		
② 職員の育成と資質向上や運営	職員一人一人が研修を通じて意欲的に保育に取り組み、チーム力の向上につなげる	記録の工夫を行うと共に、幼児理解に基づいた評価を図る	乳児	1 保育者や友達と好きな遊びを楽しみ環境づくりができるように工夫している(室内、園庭)	2.3	1 自己発揮をしながら伸び伸びと遊びを楽しんでいる	2.3	
				4 乳児期から幼児期に向けた自発的な学びや育ちを培う、発達の道筋をとらえた保育を展開している。		4 子ども自身が主体的に遊びを取捨選択できる環境の中で、心ゆくまで楽しんでいる		
③ 架け橋プログラ	架け橋期についての理解と推進	地域の小学校と『架け橋プログラム』への共通理解	幼児	3 保育者が信頼関係を築き、個々の子どもたちに応答的にかかわりながら、子どもの意思や主体性を大切にできる環境構成や援助を行っている	2.3	3 自分でできたという体験を積み重ねていく中で自己肯定感が育まれ、心身の発達につながっている	2.3	
				2 保育者の温かい眼差しのもと、一人一人の乳児の月齢や発達に合わせて、環境を変化させ再構成している		2 発達にあった環境のもと、保育者との愛着関係の中で心地よく満たされて遊んでいる		
④ 地域に関わられた園づくり	保護者への丁寧な対応や、地域・各関係機関との連携強化(子育て支援・家庭支援)	保育の意図や幼児一人一人の育ちについて保護者と共通理解を図っていく	乳児	1 乳児が安心して安全に過ごせる環境づくりに取り組んでいる(室内、園庭)	2.3	1 情緒が安定し、楽しく過ごしている	2.3	
				④ 地域に関わられた園づくり		4 互いの記録を持ち寄り、環境を再構成し、改善することによって、遊びの広がりや子どもの変容を実感し、保育の楽しさややりがいを実感できるようになった		
④ 地域に関わられた園づくり	保護者への丁寧な対応や、地域・各関係機関との連携強化(子育て支援・家庭支援)	保育の意図や幼児一人一人の育ちについて保護者と共通理解を図っていく	乳児	3 創意工夫しながら記録をとり活用する	2.2	3 それぞれの子どもたちの学びや、楽しんでいること、これから必要とする体験等、子どもの内面への気づきについて、理解を深めることができるようになった	2.2	
				1 効果的な記録のとり方を考える		1 それぞれの遊びの場面において、多様な記録のとり方を考えることができるようになった		
④ 地域に関わられた園づくり	保護者への丁寧な対応や、地域・各関係機関との連携強化(子育て支援・家庭支援)	保育の意図や幼児一人一人の育ちについて保護者と共通理解を図っていく	乳児	4 月4回以上	3.1	4 自己とほ運った考えやアイデアに触れ、同僚性を発揮しながら話し合うことで、ひとつのチームとして問題意識を持ち、取り組むことができるようになった	2.7	
				3 月3回程度		3 園内研修で学んだことが自己の保育力の向上や、やりがい、喜びに繋がっていくようになった		
④ 地域に関わられた園づくり	保護者への丁寧な対応や、地域・各関係機関との連携強化(子育て支援・家庭支援)	保育の意図や幼児一人一人の育ちについて保護者と共通理解を図っていく	乳児	2 月2回程度	3.1	2 研修に自ら学ぼうとする姿勢で参加し、温かな雰囲気の中で自身の考えや意見を伝えることができるようになった	3.0	
				1 月1回程度		1 先輩や同僚と園内研修を実施することで、自己の課題に気づき取り組むようになった		
④ 地域に関わられた園づくり	保護者への丁寧な対応や、地域・各関係機関との連携強化(子育て支援・家庭支援)	保育の意図や幼児一人一人の育ちについて保護者と共通理解を図っていく	乳児	4 『架け橋プログラム』実施におけた、公開保育や合同研修会を通じた学びの連続性についての職員間の共通理解	3.1	4 幼児期の育ちや学びを小学校へつなぐ、互恵性のある接続に向けた体制づくりに取り組めるようになった	2.4	
				3 幼小連携・接続を意識した幼児と児童の交流活動の計画と実施		3 小学校と互いの育ちの評価を交流シートに記録することで学びの可視化ができ、相互理解が深まることに繋がっていった		
④ 地域に関わられた園づくり	保護者への丁寧な対応や、地域・各関係機関との連携強化(子育て支援・家庭支援)	保育の意図や幼児一人一人の育ちについて保護者と共通理解を図っていく	乳児	2 幼小連絡会や丁寧な就学におけた引継ぎ会等の情報交換	3.1	2 卒園児の学校生活の様子や、子ども達のスムーズな就学を目指した情報交換を行うことができるようになった	2.2	
				1 園内研修において『架け橋プログラム』についての理解とフェーズ確認		1 小学校との連携・円滑な接続への理解と共に、自園の取り組みのフェーズの確認ができるようになった		
④ 地域に関わられた園づくり	保護者への丁寧な対応や、地域・各関係機関との連携強化(子育て支援・家庭支援)	保育の意図や幼児一人一人の育ちについて保護者と共通理解を図っていく	乳児	○ 連絡帳や懇談などを通して、一人一人の育ちを伝えていくきめ細やかな保護者への対応(支援への共通理解・各関係機関への繋ぎ)	2.4	○ 保護者に親しみを持って対応し、相談や要望、突発的な問題について丁寧に対応できるようになった (4)十分達成した (3)概ね達成した (2)半分以上達成 (1)不十分	2.4	
				○ 育ちのドキュメントの発信		○ 個々の子どもたちの発達を見通すと共に、その育ちや成長していく姿を写真等を使い工夫して伝えることにより、喜びややりがいを感じるようになった (4)十分達成した (3)概ね達成した (2)半分以上達成 (1)不十分		
④ 地域に関わられた園づくり	保護者への丁寧な対応や、地域・各関係機関との連携強化(子育て支援・家庭支援)	保育の意図や幼児一人一人の育ちについて保護者と共通理解を図っていく	乳児	○ 子どもの育ちがみえる行事や保育参観、保護者参加や懇談の機会の工夫や検討	2.2	○ 保護者の多様性を理解し、積極的に保護者とコミュニケーションをとることにより、園への理解と協力体制が深まった (4)十分達成した (3)概ね達成した (2)半分以上達成 (1)不十分	2.2	
				○ 保育の意図が伝わるクラス便りの工夫、ブログ等の積極的な発信		○ 子どもたちの育ちの姿を発信すると共に、保育の意図や願いを織り込みながら保護者に伝えることができるようになった (4)十分達成した (3)概ね達成した (2)半分以上達成 (1)不十分		
④ 地域に関わられた園づくり	保護者への丁寧な対応や、地域・各関係機関との連携強化(子育て支援・家庭支援)	保育の意図や幼児一人一人の育ちについて保護者と共通理解を図っていく	乳児	○ 地域に発信する子育て支援の充実(未就園児対象)	2.4	○ 子育て相談による親支援 ○ 子育て支援事業の発信 ○ 未就園児教室の企画及び開催 (4)十分達成した (3)概ね達成した (2)半分以上達成 (1)不十分	2.4	
				○ 子育て相談による親支援 ○ 子育て支援事業の発信 ○ 未就園児教室の企画及び開催				